

1. 活動を通じてわかったこと

全6回の勉強会と調査（アンケート24件・ヒアリング9社）から、技術論以前の「生々しい現場の壁」が浮き彫りとなった。

致命的な「OTとITの断絶」

現場(OT)と情報(IT)に共通言語がなく要件定義が頓挫。アンケートでは「IT/OT橋渡し人材の不足」が79.2%と断トツの障壁。

深刻化するDX格差と3つの壁

▶ **投資・人材の壁**：ROIが描けず決裁が下りない。ITリテラシー格差が激しく推進リーダーが育たない。

▶ **インフラ・通信の壁**：工場内の電波干渉による通信途切れリスク。通信規格の選定基準（モノサシ）が無い。

▶ **心理的・組織の壁**：「今のままで回っている」という現状維持バイアスと「クラウド＝危険」への過度な懸念。

調査が示す二極化（DX格差）

大企業・トップTier層

デジタルツイン・AI・PLM共通化など「DX2.0」へ巨額投資。

中小企業層

紙記録・手入力転記など「アナログ・紙文化」から脱却できず停滞。

2. 課題打破に向けた「羅針盤」

単なる「カイゼン（手段）」から、事業継続権を獲得するための「変革（目的）」へパラダイムシフトを図る。

成熟度に合わせた段階的アプローチ

Step 1. 可視化（診る） IoT後付け・現状把握

Step 2. 最適化（予測） AI予知保全・不良特定

Step 3. 高度化（創る） デジタルツイン・自律制御

4つの目指す姿

強靱化
SC全体のデータ連携

柔軟化
無線化・レイアウトフリー

全体最適
止まらない自動補正工場

仮想融合
試作レスな開発体制

技術テーマ別の対応策

▶ **無線化**：Wi-Fi 6/7・ローカル5G等、用途別インフラ選定の「モノサシ」を提示。

▶ **データ活用**：OPC UA等の国際標準採用とウラノス・エコシステムへの参画を促す。

▶ **セキュリティ**：サプライチェーン全体でのボトムアップと多層防御の社会実装。

3. 国・行政に対する要望事項

地域の努力だけでは越えられない**制度・規制・基盤の壁**について、国へ次の5項目を要望する。

① 関連省庁連携ワンストップ支援

分散した相談窓口を一元化する統合ポータルと、ROI発現までのタイムラグを埋める資金支援。

② 工場内無線化に向けた電波法規制の緩和

現場の実証データを根拠とした規制緩和と、干渉を気にせず使える「工場専用無線帯域」の創設。

③ WG発「デジタルスキル標準」の討議と提言

WGが実務に即したOT版スキル標準を討議・整理し、制度化を提言。

④ 「SCS認定制度」のボトムアップ普及・支援

経産省・総務省の連携により中小企業の取得コストを支援し、SC全体へ裾野を広げる。

⑤ パーティカルAI・AX推進に向けた基盤整備

国産ソブリンAI・GPU基盤の整備でデジタル赤字を解消し、「地域AX」の実現につなげる。

4. 今後WGが行っていくこと

提言を「画餅」に終わらせず、**産学官連携エコシステム**による6つの実行プランを検討する。

1 ビジネスマッチングの強化

現場の課題と国内IT系企業のソリューションを結び場を創出。大学・研究機関のシーズとも双方向でつなぐ。

2 生きた「事例」の積極的共有

同規模・同業種の成功・失敗事例を継続収集。カオスマップでインフラ選定の判断も支援する。

3 実践的なIT/OT人材の育成

現場設備に触れる実践逆引きワークショップを開催。産学共同で「ブリッジ人材」を地域ぐるみで育成。

4 実証実験の実施と伴走支援

テストベッドを活用した実証でROIを可視化し、構想策定から導入・定着まで一気通貫で伴走する。

5 デジタルスキル標準（OT版）提言案作成

WGが自ら具体案のたたき台を作成し、ヒアリングと討議を重ねて提言に耐えうる完成度へ磨き上げる。

6 勉強会・セミナー・講演会の実施

既存6テーマの深掘りと新テーマ設定により2～3ヶ月に1回開催。専門的テーマは外部有識者を招く。